

日本台湾学会 第21回学術大会

公開シンポジウム

台湾の多元文化と教育－ 原住民族の取り組みから



台湾では、国家による多元文化の肯定、原住民族の言語・文化の積極的な保護と発展といった政策のもと、学校教育や原住民族コミュニティを舞台に文化継承の多様な取り組みが行われている。

文化の多元性がいっそう増している台湾において、教育の場で多元性をどのように認め、どのように取り込もうとしているのか、国民教育や国家統合とはどのようにバランスを取ろうとしているのか、そのあるべき形などについて、ゲスト2名の報告に基づき議論を行う。

日時：2019年6月8日(土) 15:50～18:00

場所：福岡大学 (福岡市城南区七隈 8-19-1)

「福岡市営地下鉄七隈線「福大前」(N06)駅下車徒歩7分」

A棟2階 A201 【収容 448人】

主催：日本台湾学会

助成：公益財団法人日本台湾交流協会

使用言語：日本語、中国語(逐次通訳付き)

※ 参加費無料・事前申込み不要

※ 会員外の方でも参加できます。

■ プログラム (開場 15:20～)

報告1



比令亞布 (ピリン・ヤブ)
(台中市博屋瑪国民小学校校長)

比令亞布校長が率いる台中市博屋瑪国民小学校は、2016年度から台湾初の「原住民族実験教育」を開始した。村人を多数講師に招きタイヤルの言語・文化を幅広く教える独自カリキュラムを編成し、「学校カリキュラムのタイヤル化」も試みる。初等教育の場で民族文化を学ぶ場を創出した意義はたいへん大きい。



報告2



王雅萍
(国立政治大学民族学系主任)

王雅萍主任は、国立政治大学と新北市烏来区の原住民族コミュニティとの協働で2014年以来、成人女性を組織し、タイヤル織布文化の探究・復興を進める。その一環でアイヌの人々との交流、各地の博物館資料調査も行ってきた。烏来の歴史と文化を辿る活動が、コミュニティの枠組みを大きく超えて行われている。



写真提供：范月華氏

討論

司会：野林厚志 (国立民族学博物館)

討論：エドワード・ヴィッカーズ (Edward Vickers) (九州大学)、横田祥子 (滋賀県立大学)

● 本大会公式HP こちらのホームページに、詳しい情報を掲載しています。

<http://www.jats.gr.jp/taikai/21st/program21.html>

● お問合せ先 jats2019@jats.gr.jp (宮岡)

